

## ●白井市雇用労働支援事業 新規手法(案)の提案に対する近隣高校・大学の意見・反応

## 近隣高校①

## 【進路・就職活動について】

- ・いずれの高校も就職から進学に流れていっている中、理由はわからないものの当校は進学から就職に流れている。数も近隣校より多い。
- ・求人は凄く増えており1人あたり40以上は出ている。コロナ禍で一度減ったが増えた。今までは大卒以上のみというところからの求人が多くきており、若返りを図りたい事業者が増えている印象。運輸(ドライバー)も結構あり白井市内からも結構きている。
- ・就職は高校からの斡旋が8割以上。それ以外は多くはフリーター(夢のために「就職できない」ではなく「しない」を選択)
- ・斡旋の条件は、①学校に求人票を送る②高卒就職情報WEB提供サービス(ハローワーク)にのっているかの2つが必要。
- ・生徒の希望職種は働き方の想像が付きやすいためか男子も女子も小売(販売)が多い。男子は製造・女子は美容も少しある。公務員志望も5人程。あと大事なのは職住近接。その他の仕事は想像しにくいのだろうからパンフレットのような視覚的に訴えるものや見学や体験といったものが必要かもしれなく、就職する際は必ず会社見学にいくように指導しておりインターンシップも今年度始めた。

## 【事業案について】

- ・バスツアーなどの見学・体験を考えるにも行事等があり日程調整が難しい。2年の3学期はやるべき時期とは思う一方で企業も学校も忙しいのが難点。インターンシップを1月、バスツアーは12月上旬は試験なのでそれが終わった中旬くらいがいいタイミングかもしれない。試験は公立は全て同じタイミングで行う。
  - 市：人数が少ない場合は他校と一緒にいくことは問題ないか。
  - 高：問題ないのでは。最近の生徒は他校とのトラブルとかは少なく、むしろ普段関わりのない他校の生徒と行くことで意識が高まっていい影響を与えるのではないか。

## 【高校からの要望について】

- ・こちらから求めることとしては前述のパンフレットなどの情報提供が第一。全ての事業者の細かな情報を調べることは不可能。企業側から示してもらうことで生徒にも勧めやすい。

## 【その他】

- ・こういった形で自治体が来たことはなくありがたい。

## ●白井市雇用労働支援事業 新規手法(案)の提案に対する近隣高校・大学の意見・反応

## 近隣高校②

## 【進路・就職活動について】

- ・進学(専門が多い)希望は増えている(コロナの影響で希望する事業者が求人を絞っているのも考えられる)。求人は去年の2倍近くに増えている。今までは大卒以上からといった事業者からの求人も増えてきており、事業者の考え方が変わってきた印象を受けている。
- ・白井市内の求人は少ししか来ていなく、就職する生徒も少ない。白井と距離的には近いが交通機能的には遠いためではないか。交通の便は大事。高卒ですぐ車通勤できる生徒もあまりいないので事業を行うのであれば距離が離れていたとしても交通の便がいい高校を対象にした方がいいのでは。
- ・年によって希望職種は異なるが今年は小売(販売)が人気。去年は介護。販売が人気なのはバイトからの持ち上がりが考えられる。製造はずっと人気がない。理由として3交代制や土曜勤務が影響しているのでは。進学した同級生と交流を持つために夜中は働きたくないし土日も休みたい。給料より休みを重視している。
- ・進路については1年から簡単なガイダンスを行い、2年には夏休みや年度末(試験後)に企業見学やインターンシップ(ここから就職につながることも若干ある)。3年の4月に求人票をある程度みせて、ミスマッチを防ぐため夏休みに2つ以上の企業見学(訪問先は本人が決める)。9月1日が採用の解禁となる。

## 【事業案について】

市：何か事業を行うならいつぐらいの時期がよいか

→高：3年生の夏休みの期間がよい

→市：事業者等の学内セミナー等は行っているか

→高：付き合いがある事業者は行っている。

## 【高校からの要望について】

- ・高校として自治体をお願いしたいことはない。自治体は事業者との距離が遠いイメージがある。ハローワークや間を取り持つてくれる業者、商工会・商工会議所など色々ある。企業から直接こられてもきりがないのでこういったところを通じて進めたい。

## ●白井市雇用労働支援事業 新規手法(案)の提案に対する近隣高校・大学の意見・反応

## 近隣高校③

## 【進路・就職活動について】

- ・就職希望者は昨年・一昨年と減ってきている。進路は専門が多いが4年制大学も少子化や奨学金の充実から増えてきている。求人は1人あたり70件弱きているが遠方だったり内容を判断し、30件くらいに絞って生徒に開示する。コロナ禍で少し減っていたが今年戻った。コロナ禍ではやはり小売りや飲食が大幅に減っていた。
- ・人気がある業種は毎年違うが今年は販売(小売)。介護も常に一定数。以前は製造業が人気なこともあった。家から通える範囲は大事だが市内にはこだわらない。ただ白井から来ている生徒はいるが白井に勤める生徒はあまり聞かない。大事なのはどういう仕事か。また先輩が行っているかなども意外に大事。
- ・高校生の就職活動は事業者がハローワークに求人票を送付し、求人票のチェックをし、問題がなければ事業者から高校に送り、7/1以降解禁。その後、求人票の確認後、本人の希望を確認し学校が会社に連絡。夏休み中に会社見学(基本生徒のみ)をし、9/16が入社試験解禁というのが一般的な流れで当校もそれに準じている。見学は1社以上で何社も行く生徒もいる。
- ・高校生は基本斡旋就職(高校が会社に生徒を推薦等のサポート。内定が得られやすい反面。1人1社しか受けられない)。バイトからの持ち上がりや縁故も当然あるが高校からのサポートは受けられない。
- ・高卒就職情報WEB提供サービスを活用し学校のPCで求人情報を探してよいとしている。
- ・合同企業説明会みたいなものも興味がある生徒が行ってはいるが非常に少ない。

## 【事業案について】

- ・2年2月に進路ガイダンスがあり午後の2時間をつかって就職希望者は何社か事業者に来てもらい話を聞く。3年の5月にも行う。内容は1時間で仕事の特徴を話してもらい、残り1時間で興味のある事業者のブースに行って話を聞く。進学希望者は同じ時間に大学も呼んでおり、共に同じ斡旋業者にやってもらっているため、事業者だけ市が介在するのは余計な手間がかかってしまう。
- ・説明会は放課後であれば出来なくもないが人が集まるのか疑問。単体で1企業だけきて説明というのも実績としてはあるが、一般にも知られる大企業で参加者へのお土産も多いという売りがあった。単体の説明会は知名度とお土産がないと厳しいのでは。
- ・①案については説明だけなら学生が行く可能性もある。面接までは上記の斡旋があるので必要ない。②案は事業者知名度が大事。BtoC等で一般的に知られている事業者でないと1社の説明会は周知を頑張っても集まらないのでは。③案は拘束時間が長く厳しい。  
→市：キャリア教育の観点からはどうか。  
→高：1・2年に行うキャリア教育では業者を通じて専門学校の人を呼んでいる。その後の仕事のことや専門学校のことの両方が話せるので効率がいい(生徒の4割が専門に行く)のでキャリア教育でも事業者からというのは正直求めている。

## 【高校からの要望について】

- ・提案いただいたイベントのような事業は求めている。事業者のチラシやパンフレットのようなものを多く送っていただきたくことを希望する。

## 【その他】

- ・1月現在でも4月から働く学生はいないかという問い合わせが事業者からくる。どこも高齢化による世代交代が求められていると聞く。製造はどこも人が足りなく卒業生で仕事やめた生徒がいたらうちに案内してほしいと言う事業者もいるほど。
- ・ハローワークからも色々送られてはくるが直接来ることはなく、他の自治体による訪問も今までなかった。ありがたい。

## ●白井市雇用労働支援事業 新規手法(案)の提案に対する近隣高校・大学の意見・反応

## 近隣高校④

## 【進路・就職活動について】

- ・進路は専門 5 割・4 年制大学 4 割・就職 1 割。進学希望が増え就職希望者は年々減っている。少し前と比べ 1/3 程となった。
- ・学生の就職希望先はサービス業が人気で製造は少ない。運送も多かったりするが大型・長距離というよりは生協など。女子は事務系希望が多い。条件面では給与よりは就業時間・ワークライフバランスが重要視されている。通いやすいというのも大事で公共交通手段で行けるといって勧めやすい。
- ・大学や専門学校から人を呼ぶ進路ガイダンスはコロナ禍で中止していたが再開しつつある。2 年は仕事体験・1 年は仕事・働くとはといったこと。

## 【事業案について】

- ・2・3 年に対し具体的な話をするというよりは、1 年に向けた仕事全般のような話が参加者は増える(ただ会社の宣伝などは難しい)。
- ・バスツアーについては生徒が希望する業種に行けることが大事。行うなら平日以外の方がよい。
- ・時期は 3 年の夏休みだとある程度行き先が決まっています履歴書をつくっていたりする一方で春先だと学校のイベントもあるので調整が難しい。 木曜の 5・6 時間目に進路関係のものをいれているのでそこで出来るかもしれない。5 年度是非一緒に何かできれば。  
→市：参加が少なすぎると事業者の手間だけ増えてしまう。他校の生徒や一般の求職者と一緒に行く等は可能か。  
→高：他校は可能だが一般はできない。

## 【高校からの要望について】

- ・色々提案を頂いたがこちらから希望を出すならインターンシップ。これも他校と行っても問題ない。仲介業者に依頼して行っているがどうしても遠いところになってしまう。2 年生の夏休みに行い、業種は製造, 保育, 看護, 消防, 市役所等が主な希望となる。マッチングしてもらおうとありがたい。

## ●白井市雇用労働支援事業 新規手法(案)の提案に対する近隣高校・大学の意見・反応

## 近隣高校⑤

## 【事業案について】

- ・①案については、仕事や会社について事前にある程度調べた上で行うのであれば将来的にはマッチングに繋がるのではないかと思う。
- ・②案については、すぐ生徒が仕事の内容をイメージするのは厳しいと思う。就職の指導の際には求人票の内容を補足説明したりした後、家で保護者に相談した後、会社見学をさせてる現状から考えると難しい。大学生と違って高校生なので。
- ・③案については、希望しない。

## 【高校からの要望について】

総合探求の時間で、1・2年生は分野に分かれて(大学・専門・就職)講演を聞いたり、訪問したりする企画がある。就職希望者のために協力いただける企業があれば助かる。ただこの段階(2年次)では希望業種がはっきりしている生徒は少ないが。

## ●白井市雇用労働支援事業 新規手法(案)の提案に対する近隣高校・大学の意見・反応

## 近隣高校⑥

## 【進路・就職活動について】

- 希望する業種は男子が①運送、②介護、③製造、④サービス、女子が①販売、②サービス、③事務。とはなるが多い分野に偏るのではなくかなりばらけるのがここ数年の傾向。

## 【事業案について】

- ①案はととてもありがたい。ただ高校生の場合、ハローワークの委嘱により学校が就職活動をサポートすることになっているため、ハローワークとの関係性が気になるのでその調整に問題がなければ生徒たちに紹介したい。
- ②案は1社でなく1度に複数の会社の説明を聞くことができるのであれば、生徒にとって有益だと思う。ただハローワークや民間進路業者も同じような企画を行っているため、時期がダブらないことと、高校側の行事との兼ね合いによって、参加率が変わる。(コロナ禍の為、近年実施が出来ていないが)
- ③案は本校にとってもとてもありがたい。進学ではオープンキャンパスへの参加が当たり前だが、就職の場合、見学できるのは1・2社程度。進学者は、高校在学中見学する機会は皆無。就職者にとっては、複数の会社を知る機会、進学者にとっても将来の就職先候補として認識する機会になると思う。2年次6月ごろに行っていただきたい。
- ④案は行うのであれば希望したい。1年、2年、3年それぞれの学年で、進路ガイダンスを組んでおり、その企画に参加してもらえるとありがたい。ただガイダンスの性格上、自社のアピールではなく、業種についての案内に限定となり、それでよければお願いしたい。また生徒に人気のある業種かどうか参加率に影響すると思う。
- 6(1)の例にあるものも有意義だと思う。人事の方はもちろんだが、創業者や経営者の方から話を聞く機会はほとんどないので、人生勉強としてよい。1年・2年の授業内でそうしたことの可能な時間を設定できる。授業の都合上、全員に聞かせることとなると来校いただけるとありがたい。
- 事業の時期については、共通して避けていただきたいのが、4月と定期テスト1週間前から、テスト期間中。各学年ごとでは、1年(4・5月)、2年(4・11月)、3年(4月)、これ以外に文化祭前などがあるものの、行事予定が確定していないため、伝えられない。

## 【その他】

- 本校にとってもメリットの多い内容を提示していただき、大変ありがたい。高校生の就職について、色々問題点指摘されているが、地元企業への貢献という視点は欠かせない。学校としては様々な行事があるため、新しい行事が組みにくいのが現状だが、調整がつけば参加したいものばかり。ただし実際実施となるとについては管理職の判断が必要となるのであくまで担当の一意見となるので承知してほしい。

## ●白井市雇用労働支援事業 新規手法(案)の提案に対する近隣高校・大学の意見・反応

## 近隣大学①

## 【進路・就職活動について】

- ・今の学生は東京であっても遠いと感じており、出来れば自宅から職場に通いたい学生が多い。
- ・希望する職種は様々。学部によってはそこで学んだことを活かした先に進むのが多いところもある。
- ・就労支援の人員が少ないのでエージェント企業が事業者を集めて説明会を行う。1月には既に学生に対する企業勉強会(解禁は3月からなのでこういう名称)を始めた。当大学に向けては白井だけで何かやるというより、こういうエージェントに依頼した方がいいのでは。
- ・ハローワークは新卒応援ということで毎週のようにきて相談などを行ってくれる。
- ・個々の事業者からの求人情報もたくさんくるので学生が見れるサイトには掲載している。

## 【事業案について】

- ・県内大学で構成される就職活動のための団体に所属しており、学生はそこで得られた情報を見ることが出来る。就職フェア等のイベントがあればそこで周知は出来るが、白井市限定となると参加する学生はいないと思う。現状白井市内への就職はあまりいなく、事業者からの情報もあまり来ない。イベントは県単位くらい大きくなければ興味を示すことはないのでは
- ・バスツアーは拘束時間が長そうで大学にくる時間がまちまちな大学生には向かない。
- ・何か事業を行うとしても2・3月は春休みなので注意。5・6・7月が就職活動が最も活発化している時期で7月にはほぼ決まっている。行こうなら春のうち。

## 【大学からの要望について】

- ・大学として希望することは、どういう事業者があるかを知ってもらうため、パンフレットのような案内やこうしたサイトに掲載できる情報提供。これらを見て興味を持った学生がいれば提案いただいた①②の事業を白井がやっているみたいだよと案内もできる

## ●白井市雇用労働支援事業 新規手法(案)の提案に対する近隣高校・大学の意見・反応

## 近隣大学②

## 【進路・就職活動について】

- ・今年度の就職希望者は多いときの半分程。最近は大学院への進学が多い。就職地域は大学から離れている。
- ・人気の業種は福祉・教育・人材系。製造は中々いない。
- ・学生は大学に来ている求人票をみるというより自分のスマホで探している(マイナビ・リクナビ等)。給与よりは仕事内容や日曜休みが大事。
- ・学内セミナーは委託業者とは行っていない。大学と縁の深い事業者からの説明会を行っている。

## 【事業案について】

- ・就職活動当初ではどの仕事・業種に進みたいと決まっている学生は少ない。その意味で色々な業種が集まった合同企業説明会はいいものの市という規模で行うのは疑問。市にこだわる必要はないのでは。Uターン就職を考えても普通は県単位。
- ・バスツアーは事業としてはいいと思い、他の学校と一緒に行うのも可能だが、大学生に合わない。中高生向けに即就職というものでなく今後に繋がるという長い目でみるべきでは。

## 【その他】

- ・工業団地へはどのように通勤するのか。バス等の公共交通機関があるのか
- 市：ある。通勤のため事業者からの増便も求められてはいる。
- 大：いただいた提案よりもそれが一番大事では。

## 【大学からの要望について】

- ・インターンシップを受け入れてくれる事業者は貴重。2週間くらいのある程度長い期間だと一番よいが事業者も大変だと思う。その際は1日でもやってもらえるとありがたい。
- ・中小事業者だと名前だけではどんな仕事をしているかわからず、そこが単独で会社説明会を行っても行くことは中々ないと思う。どのような仕事をしているかやインターンシップを受け入れてくれるか、障害や発達に問題を持っている人の受け入れへの理解等の情報をリスト化して提供してくれると学生に紹介しやすい。
- ・提案を色々いただいたが学生への情報提供で大事なものは何よりも会社からの資料。立派なチラシ・パンフレットでなくてコピーのもので構わないので提供してほしい。